

368 ガンマーカウンター精度管理プログラム
日比野正明、青柳良人、八須賀淳（アロカ株式会社）
喜多村道男（帝京大学溝の口病院）

多検出器内蔵型オートウェルガンマシステム
(ARC-600, ARC-1000) 精度管理用プログラムの
仕様・運用方法について報告する。
ガンマーカウンタの点検時に得られたデータ(感度比、
BKG値、計数率の日差再現性、同時再現性、電源電圧、
温度、湿度)を入力し、記憶媒体(F・D等)に記憶・保存し
ます。各種精度管理項目のデータは、点検を一週間に
一回程度としますと一年分以上の記憶が可能です。記憶
されたデータから経時変化をグラフにしたり、点検
データが管理限界内に入っているかをチェックする等
の機能があります。

369 エリスロポエチン・コートリアの基礎的検討
三浦博、伊吹幸男、近江昭一、築野元、山畑尚美、
風早康弘（シーアイエス ダイアグノスティック）

エリスロポエチン(EPO)の試験管固相法による1ステ
ップIRMAキットがバイオメリュー社で開発された。本キ
ットを導入するために基礎的検討を行った。

1)検体量は200 μ l、反応条件は室温、振盪3時間が最適
であった。2)測定感度は2.2mIU/mlであった。同時再現
性(CV値:2.8~8.8%)、日差再現性(5.9~10.1%)と
も良好であった。3)添加回収率は91.4~109.7%であり、
希釈直線は原点に収束した。4)本キットは天然型EPOと
組み換え型EPOとを同等に認識した。一方フック現象は
50IU/mlまで認められなかった。5)健康人(n=22)のEPO
値は 10.5 ± 6.1 (m $\pm$ SD) mIU/mlであった。6)既存のRIA
キットとの相関は良好であった。以上のことから本キ
ットは臨床場で十分使用できるものと判断された。

370 エンドセリン-1測定用試薬「榮研」の基礎的検討

伊藤 正雄、大野智昭、石橋 嘉一郎
(榮研化学株式会社 研究開発本部)

エンドセリン(ET)は21個のアミノ酸からなる新しい血管
作動性ペプチドであり、血中濃度を測定することによる、病態生
理的意義の解明が試みられている。今回我々はETのファミリー
ペプチドのうち、ET-1の測定用試薬を開発し、基礎的検討を
行ったので報告する。

本法は二抗体PEG法を用いたラジオイムノアッセイである。
測定範囲は10~1280 pg/ml(1~128 pg/tube)で
あり、最小測定感度は7.7 pg/mlであった。再現性(C.V.
%)はアッセイ内で2.4~7.6%であった。交差性はET-2
とは30.7%, ET-3とは0.002%以下、Big ET-1
とは59.8%, ANP及びBNPとはいずれも0.002%以下
であった。Andoらの方法に準じて正常検体17例を抽出し、本
法で測定したところ平均4.4 pg/mlであった。

371 Pepsinogen I/II RIA・BEADの検討

須栗 眞、新井宏育、広瀬信長、飯沼一茂、若荷昭男、池田
勲夫、倉田邦夫(ダイナボット株式会社) 三木一正、
黒川 清(東京大学 第一内科)

渡辺千之、隅井浩治、梶山悟朗(広島大学 第一内科)

ペプシノゲン(Pepsinogen)は、胃液中の蛋白分解酵
素ペプシン(Pepsin)の不活性前駆体であり、免疫学的
にペプシノゲンI(PGI)およびペプシノゲンII(PGII)
に分類される。近年、血中PGIおよびPGIIの測定は萎
縮性胃炎や胃癌、胃ポリープ等の胃粘膜の萎縮を伴う疾
患の指標として有用であると報告されている。

今回我々は、ヒト胃粘膜より精製されたPGI および
PGIIに対するモノクローナル抗体を作製し、それら
を用いたIRMA法を開発したので、その基礎的検討成績に
ついて報告するとともに、若干の臨床データを紹介する。